



実習生寮入口脇にある蜜柑の木。この実が色づく頃には、実習生の皆さんで賑やかな寮になっているでしょう。

企画・編集 澁谷 健司/栗又 由利子

9月に入りました。首都圏を中心にした緊急事態宣言が今月末まで延長されることになりました。それでも、毎日の感染者数は減少傾向にあり、ワクチン接種率も着実に上がってきていることから、先月に比べて、コロナを取り巻く状況自体は、徐々に良い方向に向かっていると感じられます。新聞やテレビ等の各メディアでは、外国からの入国に対する規制緩和の話が、少しずつ聞こえてくるようになってきています。当校でも、大半の日本語講師がワクチン2回目接種を完了しており、後は実習生の皆さんの来日を待つばかりとなっております。

あじけんスコープ Vol.101 ～アジア研修センター スタッフ紹介 その1～



今月は、現在アジア研修センター実習生寮のメインの管理人として勤務している当校入寮担当スタッフの池田 浩（通称：いけださん）を紹介いたします。

お世話になっております。池田浩（いけだひろし）と申します。4月に退職した高見の跡を継ぎ、週3回実習生及び寮の施設管理をさせて頂いております。

コロナ渦で実習生の入国が出来ず、以前のように実習生に会う事が出来ない状況が続いておりますが、かつて沢山の实習生の皆さんが入寮していた時、私は、**・げんきなあいさつ・ごみの分別・時間厳守**

この3つの事を心掛けて、皆さんに接するようにしていました。日本の職場に行き、また地域で暮らす中で、これらのことが必要になるからです。また、帰国後、母国での生活でも参考になると思うからです。

今後もこの3つの事を念頭に置き、全ての実習生の皆さんが、「きぼうで生活し、日本語を勉強できて楽しかった」と思えるように、皆さんの生活をサポートしていきたいと思っております。

今後とも、宜しくお願いいたします。

今月の実習生番外編

今月は、現在アジア研修センター実習生寮で、一時的にお預かりしているベトナム人 TRAN VAN THANG (タン)さんと、HOANG MANH TU (トゥ)さんの2人を紹介させていただきます。2人は先月、無事に3年間の技能実習を終え、現在は、特定技能の在留資格を取得して、引き続きに日本滞在するための調整期間の為、当校実習生寮に滞在しています。

はじめまして。タンです。青森県で3年のじしゅうせいが終わりました。今コロナウイルスでベトナムに帰らないです。今は茨城県の会社で働いてます。今はまだアジア研修センターで、新しいVISAが出たら茨城に移動します。2年くらい延長する予定があります。未来のためにがんばります。

私の女まえはトゥです。岩手県から来ました。私のしごとをはじめのせつをいせつくりました。コロナウイルスでベトナムに帰れないからここでいかにどうにえんちよします。コロナウイルスがなくなったら、ベトナムに帰ります。



あじけん流日本語授業

～ 会話テスト「Cレベル」～

今月のあじけん流日本語授業ですが、先月号に続き、当校が最重要視しており、講習開始時、修了時に行っている会話テストの基準、内容をご紹介します。

当校の会話テストは、6段階、A～E-（イーマイナス）で判定しています（2021.8月号をご参照ください）。この6つの段階の中で、今回は、「C」レベルについてご紹介いたします。Eレベルの間答、「D」レベルの「指示に従う」「聞き返しができる」などもクリアした実習生には、以下のような質問をしています。それらの質問に流暢に答えることが出来、相手が安心して会話を続けることができるレベルを、「C」レベルと判定しています。

【形容詞を使った文で、質問に答えることができる】

- ・寮の部屋はどう？
- ・日本の食べ物はどう？
- ・ここの勉強で何が一番役に立った？

【少し複雑な問いかけに答えることができる】

- ・昨日は、地震があったけど、大丈夫だった？部屋でみんなどうしてたの？
- ・日本で働いたお金は、何に使う予定？

【なぜ、どうしての質問に答えることができる】

- ・どうして日本へ来たの？
- ・なんで昨日は勉強しなかったの？



以上のような応答ができるようになるためには、講師の日本語が聞き取れる（理解できる）ことはもちろん、自分で発話する（使用できる）ための語彙力、文法力が必要です。教室の学習だけでなく、個人的にコツコツと勉強している実習生は、こういった質問にもしっかりと答えることが出来ます。

当校では、このレベルになれば、実習期間、実習内容だけでなく、実習先の日本人の方と日常的にコミュニケーションが取れるのではないかと考えており、できるだけたくさんの実習生がこのレベルで講習を終えて欲しいと思いながら授業に取り組んでおります。せっかく海を渡って日本に来たのですから、ぜひたくさん日本人とコミュニケーションを取り、「日本にきてよかった、楽しかった」と思って実習を終えてもらいたいと考えています。そのためには、実習生にはコミュニケーションをとるための日本語を身に付けてもらい、積極的に日本人のみなさんと交流することが必要です。そして、「また日本に来たいな」という気持ちで帰国して、その思いを後輩たちに繋げて欲しいというのが、私達の願いでもあります。

なお、コミュニケーション能力については、厚生労働省から、企業などで外国人従業員とその上司・同僚などが、円滑にコミュニケーションを図れるように、外国人従業員の日本語能力を確認し、目標設定を行うことのできるツール「就労場面に必要な日本語能力の目標設定ツール」とその使い方の手引きというのが発表されました。これからは、こういった国の指標も参考にしながら、よりよい教育活動ができるようなお一層努めてまいります。

厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18220.html

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます